

学校だより
No. 10
2024. 10. 7

あかさか

文責
校長 鈴木 茂

実りある修学旅行となりました

10月3日（木）～4日（金）に、会津方面への修学旅行を行いました。今年度も、子どもたちの自主的・自律的な行動力を育成するため、フィールドワークを取り入れました。

1日目は、会津藩校日新館と県立博物館、鶴ヶ城見学、そして会津漆器の蒔絵体験を行いました。県立博物館では、学芸員の方から震災時の講話をしていただき、先月見学した浜通りの状況と照らしながら学びを深めることができました。

2日目は、飯盛山の見学と会津若松市内のフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、グループの仲間と協力し合い、自主的に市内を散策したり、体験活動に取り組んだりしました。宿泊地は東山温泉の旅館で、会津の郷土料理も含め食文化に触れながら、ゆったりと楽しく過ごすことができました。

2日間を通して、自分たちで時と場を考えながら行動したり、普段の学校生活では得られない貴重な体験をしたりしました。子どもたちは、緊張感をもちながらも、約束を守って立派に行動できる大田小学校の6年生でした。健康管理に注意していただきながら送りだして下さった保護者のみなさまに、感謝申し上げます。

修学旅行の様子については、時折ホームページに掲載しておりましたので、どうぞご覧ください。



生活習慣の重要性について話し合いました



9月30日（月）、今年度2回目の学校保健委員会を行いました。

今回は、子どもの生活習慣病予防について、参加者の様々な立場から意見交換しました。

学校医、学校歯科医、学校薬剤師の3名の先生方からは、生活習慣の乱れが子どもの生活習慣病を誘発し、それが成人になっても継続していくこと、歯の健康のためにだらだら食いをしないこと、すぐに薬に頼るのではなく休養とバランスのよい食事を心がけることなどのお話がありました。

保護者の皆様のお話からは、各家庭で規則正しい生活を送らせるために、睡眠時間の確保、食事の摂り方、メディアとのつきあい方などにおいて、様々な工夫をしてくださっていることが分かりました。

これらのことから、大人が工夫することの必要性とともに、子どもと話し合いながらルールを決めることの大切さも共有することができました。



コミュニティの原点とは



10月1日は衣替えとともに、運動着から制服登校になる日でもありました。

私は、毎朝ライスセンター前の交差点で立哨指導をしています。大田地区は、きまりや約束を守る地域であることは十分に分かっているのですが、うっかり忘れて運動着登校をする児童が、若干名はいるのではないかと考えていました。ところが、運動着登校の児童はいませんでした。1名もです。

保護者のみなさまが、2学期始業日に配付されたお願いを意識し、実践してくださったことを感じ、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

「約束を守る」。これは社会生活上、当然のことです。でも、当たり前のことをみんなで守れる社会を築くことは簡単ではありません。

このことは、今年度の資源回収の出来事とも重なります。今年度から瓶類は回収できなくなったことを地区民にお知らせしていたところ、1本も瓶類が出されることはありませんでした。

私が書いていることは、華やかさはないかもしれませんが、この地に暮らす人々が、子、孫へと「約束を守る」精神を教え、伝えることで地区住民の結びつきが成り立ってきたのです。これは、大田地区の誇りです。

「よい伝統をつなぐ」とよく言いますが、これこそ、現代社会におけるコミュニティづくりの原点であると言えます。

結びに、少しでも疑ったことをお詫びします。

